



Ⅱ. 面接相談の進め方

1. 支援者に求められる基本的態度とスキル

(1) 基本的態度

● 共感

「共感」は、相談者である家族と自分を重ねてその考えや気持ちに同意することではありません。家族のありのままの状態や気持ちを批判や非難なしに受け止め、その苦悩や喜びを正確に理解しようとすることです。共感が支援者の中だけに留まることなく家族にもきちんと届くように、支援者は言葉や態度で「共感」を示すことが大切です。



相手の言葉を繰り返すなどして共感を示しましょう

● 傾聴と間違い指摘反射

「傾聴」とは、言葉の背後にある様々な思いや感情まで理解し受け止めようとするのですが、傾聴の邪魔になるのが、「苦しんでいる・困っている人を援助し正しい方向に導きたい」という支援者の職業的習性であり、「間違い指摘反射」とも呼ばれるものです。例えば、「子どもの携帯電話をこっそり開いて、売人や悪い仲間の連絡先をすべて消してやったら子どもが家で大暴れしました。あの子のためを思ってやっているのに、親の気持ちも知らないで…」と話す家族に対して、「勝手に人の携帯を見てはいけません。本人との境界線を持ちましょう」と正論で返せばそこで面接が終わってしまいます。そういう時は一歩引いて、「私はこの人を正したいと思っているんだなあ」と自分を客観的に見つめることが大切です。